

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
214	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Mental health and alcohol, drugs and tobacco: a review of the comorbidity between mental disorders and the use of alcohol, tobacco and illicit drugs. 精神衛生とアルコール・薬物・タバコ：精神疾患とアルコール・タバコ・違法ドラッグの並存に関する報告の総説	
<b>執筆者</b> Jané-Llopis E, Matytsina I.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Drug Alcohol Rev. 2006 Nov;25(6):515-36. Review.	
<b>キーワード</b> アルコール、タバコ、違法ドラッグ、精神衛生、合併症	
<b>要 旨</b> <p>高所得国における精神異常と薬物使用との関連を過去 15 年間に報告した論文の総説である。精神異常と薬物使用の合併は各国で高率にみられた。多くの報告で、薬物依存者中の精神疾患患者率の方が精神疾患患者中の薬物依存者率よりも大きく、中でも違法ドラッグ使用者中の精神疾患患者率が最も高かった。また、薬物依存が重症であればあるほど精神疾患患者率が高かった。薬物や精神疾患の種類によって因果関係は異なるものの、アルコールについては抑うつの原因となっているようである。ヨーロッパの研究では10%の男性のうつ病がアルコールに起因している。薬物使用を減少するような方策が精神異常の有病率を低下させると思われる。治療の際には精神疾患と薬物使用の治療が総合的に行われるべきである。また、低所得国でも同様の精神疾患と薬物使用の合併についての調査が必要であろう。</p>	